６神代高第１７２４号
令和７年３月３１日

令和６年度　東京都立神代高等学校（全日制課程）学校経営報告

東京都立神代高等学校長　小林　正人

１　今年度の取組と自己評価

（１）　教育活動への取組と自己評価

①　生活指導：自律的生活習慣の確立と規範意識の徹底　【自己評価　B】

ア　頭髪指導・時間厳守・人の話を聞くこと等の重点目標も概ね徹底できた。遅刻指導に力を入れ、特に３年生の遅刻者は昨年度より大幅に改善した。SNS、スマートフォンのマナーの徹底が課題である。

②　学習指導：学習習慣の確立と自学自習力の育成　【自己評価　A】

ア　対話的な取り組みの導入など、単なる知識の伝達から、生徒に「考えさせる」、主体的な授業への転換を実行できた。
　また、授業観察後の指導・助言を丁寧に行い、各教員の授業力向上に努めた。

イ　次年度は、各教科による３年間を見通した詳細な学習指導計画を作成し、確実かつ効率的に学力の育成を行う。

③　進路指導：３年間を見通した計画的進路指導の確立　【自己評価　B+】

ア　３年間を見通した進路指導計画を昨年度の状況を踏まえて改善を加えつつ実施した。拡大進路指導部会及び全教職員参加の進路研修会を実施し、生徒の学習状況を共有して進路指導部を中心とした学校全体での組織的な取り組みができた。

イ　進路指導部から模擬試験のデータの提供がスムーズに行われ、共有及びデータの蓄積が進んだ。個人情報の保護を確保した上で、データベース化が進んだ。模擬テストの振返りや分析結果の活用について改善していくことが課題である。

ウ　国公立大学の合格者数は昨年の６名から８名へ、GMARCH 以上の私立大学への合格者数は昨年の１４５名から１１８名へと堅調な実績を上げた。次年度は、家庭学習時間を増加させるなど、第一志望実現に向けた指導を徹底して行う。

④　特別活動・部活動　【自己評価　B】

ア　新型コロナウイルス感染症第５類移行に伴い、学校行事・部活動ともに感染予防に注意しながら依然と同様の活動を実施できた。生徒による自主的な学校行事運営を実行することができた。

イ　オンライン英会話を実施するとともに、ＪＥＴが２名に増員されたことにより、生徒が放課後等にネイティブとスピーカーと会話する経験を増やすことができた。

⑤　地域との連携　【自己評価　B】

ア　ボランティア活動等に参加し、地域と連携した体験的な活動を行ったが、一部の生徒の参加にとどまった。

イ　地域と連携した防災訓練は実施するとともに、学校運営連絡協議会・防災推進委員会の委員と情報交換を行った。

ウ　今年度は市主催の防災訓練への生徒の参加が少なく、改善して地域と協力する姿勢を育む。

⑥　健康づくり　【自己評価　B】

ア　体力増進については、体育科を中心に指導している。例年、年度末に行っている持久走タイムトライアルを実施した。今後も体育活動や部活動中の事故の未然防止や感染症対策に向けた取組みを強化する必要がある。

イ　学校保健委員会、教育相談委員会を定例以外にも必要時に開催し、生徒の心身の健康状況について情報を共有することにより、様々な課題に適切に対応することができた。養護教諭・スクールカウンセラーと連携し、必要に応じてケース会議を複数回実施した。

⑥　募集・広報活動　【自己評価　A】

ア　学校見学会・説明会等は、参加希望者をなるべく受け入れられるよう工夫し、多くの参加者を集めた。

イ　秋に２回、学校説明会の午前中に中学生及び中学生保護者対象の授業公開を実施し、高評価を得た。その結果、本校を第一志望とする生徒の拡充が図ることができ、高い入試応募倍率を維持した。

ウ　ホームページによる情報発信を改善し、平均月１５回以上の更新を行った。部活動の随時の情報提供が一部の部活動に限られたが、今後改善していく予定である。

⑦　学校経営・組織体制　【自己評価　B^{+}】

ア　分掌・教科ともに組織的な運営を行うことができてきた。今後はそれぞれが連携し、学校全体でより組織的に取り組む必要がある。

イ　計画的な予算執行を達成できたが、次年度は予算調整会議の充実化を図る。

ウ　経営企画室を中心に、安全確保のための平常からの設備・施設点検を徹底して行った。

エ　服務事故防止研修を年３回実施するとともに、体罰防止研修を実施し、事故の防止に努めた。

オ　様々な休暇制度の取得を奨励すると共に、時差勤務やテレワークを積極的に活用し、ライフ・ワークバランスを推進した。今年度は２名の男性教員が育児休業を取得した。

カ　次年度は、多様な生徒への対応のためのオンライン学習について、積極的に取り組む。

（２）　重点目標への取組と自己評価

①　生徒自らが主体的に取り組む、「考えさせる」授業への転換【自己評価　Ａ】

ア　ほぼすべての授業で「考えさせる」展開を実施できた。

イ　模範授業、年次の研究授業を通して、教員相互の授業参観が実施できた。次年度は、研究協議を充実させ、授業改善に役立てる。

ウ　保護者対象の授業公開を春と秋に実施した。次年度は授業評価アンケートを全校で実施する。

エ　日常の適切な課題の設定により、学習習慣を身に着けることができた。

オ　ワークシート等の学習コンテンツへの掲載に伴い、「予習→授業→復習」のリズムが確立しつつある。

②　国公立大学・難関私立大学への進学希望の実現　【自己評価　B+】

ア　進路後援会等の様々な取り組みにより、安易な指定校選択ではない、第一志望受験の姿勢が整いつつある。

イ　長期休業日中の補習・補講は７０講座を維持した。２学期以降、土曜日の校内での模試に参加して力をつけていく生徒も多く見られた。ただ、教員個人に頼っている状況もあり、さらなる組織的な取組みが必要である。

ウ　各種模擬試験の事前・事後指導は一部の教科で実施した。今後は全教科での実施を目指す。

エ　進路指導部主導で模試の年間指導計画を改善するなど組織的で継続性のある進路指導を確立しつつある。

③　募集・広報活動　【自己評価　Ａ】

ア　教務部を中心として、計画的かつ効率的に、全校体制で募集・広報活動に取り組むことができた。

イ　学校見学会・説明会等は、参加希望者をなるべく多く受け入れられるよう工夫し、多くの参加者を集めた。

ウ　中学生及び中学生保護者に対し、学校説明会の午前中に授業公開を実施した。

エ　ホームページによる情報発信について、月１５回以上の更新を行った。部活動の随時の情報提供が一部の部活動に限られたが、今後は改善していく予定である。

【数値目標】	目標	結果	昨年度
①　年間遅刻総数の前年度比	5%減	5%減	(5%増)
②　部活動加入率	90%	92%	(90%)
③　授業外の学習時間	2 時間以上	60 分	(60 分)
④　長期休業中の講習の延べ講座数	70 講座	70 講座	(70 講座)
⑤　現役国公立大、GMARCH 以上の私大合格者数	120 名	121 名	(151 名)
⑥　ホームページ更新回数	月７回	月 10 回	(月６回)
⑦　中学校進学対策協議会応募希望者数	2.00 倍以上	1.95 倍	(1.89 倍)

２　次年度以降の課題と対応策

（１）　生徒が主体的に学ぶ姿勢を育む授業への改善

模範授業等を実施し、授業後の研究協議を校内研修の形で実施し、授業改善に向けた実践的な取り組みを推進する。模擬試験の事前・事後指導を充実させ、生徒自らが実力を把握するとともに、結果分析の活用及び全教職員による共有も更に進める。

（２）　自律的生活習慣の確立と生徒の自主的活動の支援

SNS の正しい利用方法について、教職員の研修を行い、全学年共通の指導を実現する。また、部活動・行事における生徒の自主的・自律的活動を支援し、「切り替えと集中」による、けじめある学校生活を実現する。

（３）　３年間を見通した進路指導の確立

拡大進路指導部会、進路研修会等を通して全教職員で情報を共有し、３年間を見通した進路指導計画の更なる改善を行う。

（４）　組織体制の整備

業務の適正な分担を進め効率的な組織運営を図る。情報の共有を進め、全定の連携を一層強化して学校運営を進める。